「評価規準の作成のための参考資料」「評価方法等の工夫改善のための参考資料」を受けて

新しい学習評価についてのガイダンス（中学校）

福岡県教育委員会

参考資料の活用について	2~ 3
総 説	4~ 5
国 語	6~ 7
社 会	8~ 9
数 学	10~11
理 科	12~13
音 楽	14~15
美 術	16~17
保健体育	18~19
技 術	20~21
家 庭	22~23
外国語	24~25
総合的な学習の時間	26~27
特別活動	28~29

「参考資料の活用について」及び「総説」のページを読んだ上で、各教科等のページにお進みください

参考資料の活用について①

国立教育政策研究所において**「評価規準の作成のための参考資料」**※ 、**「評価方法等の工夫改善のための参考資料」**※及びその２つを基に編集された**「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料の活用方法」**※がとりまとめられました。

本書はこれらの参考資料を各学校において効果的に活用してもらうために、その内容を簡潔にわかりやすく示したものです。まずは、各教科等で共通にあてはまる「１　評価の進め方と参考資料の活用場面」及び「２　実際の作業例」を示したので、これを踏まえた上で各教科等のページに進んでください。

※ 国立教育政策研究所のホームページから入手可能

１　評価の進め方と参考資料の活用場面

	□評価の進め方	○留意点，参考資料の活用場面
■単元又は題材 ・　単元，小単元，題材など，教科等によって指導計画を作成する際の「学習内容のまとまり」の捉え方が異なります。そのまとまりを踏まえて指導計画上の目標を設定することが大切です。	1 **単元又は題材の目標を設定する**	○学習指導要領の目標と内容を踏まえる。 ○児童生徒の実態，前単元までの学習状況等を踏まえる。 学習指導要領の内容を踏まえて「評価規準に盛り込むべき事項」が設定されているので、逆にこれを目標の設定に生かすことも可能
■評価規準 ・　設定した目標について，児童生徒がどのような学習状況として実現すればよいのかを具体的に想定したものです。 ・　観点ごとに設定し，「おおむね満足できる」状況を示しています。	2 **評価規準を設定する**	評価規準の作成のための参考資料 **活用場面１** ○単元で取り上げる内容と同じ内容の**『第２編　評価規準に盛り込むべき事項等』**を参考にして，評価規準を設定する。 ○上記で設定した目標を踏まえるように留意する。
■「指導と評価の計画」 ・　設定した評価規準と評価方法を指導計画に位置付けたものです。	3 **評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける**	**活用場面２** ○評価時期や評価方法などについて，**『第３編　評価に関する事例』**を参考にして，「指導と評価の計画」を作成する。 評価方法等の工夫改善のための参考資料
■評価の目的 ・　学習評価を行うに当たっては，児童生徒の学習状況を把握して次の指導に生かすことが重要です。 ・　また，指導要録の記載に向けて観点ごとに評価結果を記録に残し，それを総括することも必要です。	4 **評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする**	**活用場面３** ○**『第３編　評価に関する事例』**を参考にして，どんな評価資料（子どもの反応や作品など）を基に，どのような（「おおむね満足できる」状況等の判断の）目安で評価するかを考える。
	5 **観点ごとに総括する**	**活用場面４** ○**『第３編　評価に関する事例』**を参考にして，集まった評価資料やそれに基づく評価結果（Ａ，Ｂ，Ｃ）などを基礎資料に，観点ごとの総括的評価（Ａ，Ｂ，Ｃ）を記録する。

国立教育政策研究所発行「『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料の活用方法について』のパンフレットより引用

参考資料の活用について②

2　実際の作業例

小学校の例を示していますが、中学校も作業の方法や考え方は同じです

小学校社会科を例にした実際の作業（第６学年 内容（２））

◇学習指導要領

1　目標

（2）日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし，・・・

2　内容

（2）我が国の政治の働きについて，次のことを調査したり資料を活用したりして調べ，・・・

ア　国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。

イ　日本国憲法は，国家の理想，天皇の地位，国民とし

◇評価規準の設定例　評価規準の作成のための参考資料

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
・地方公共団体や国の政治の働き，日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関連に関心をもち，意欲的に調	・地方公共団体や国の政治の働き，日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関連について，学習問題や予想，	・資料やインターネットを活用したり，聞き取り調査をしたりして，地方公共団体や国の政治の働きについて	・国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解している。 ・日本国憲法は，

評価方法等の工夫改善のための参考資料

◇小単元「願いを実現する政治」

1　目標

地方公共団体や国の政治の仕組や働きについて，資料を活用したり聞き取り調査をしたりして調べ，社会保障などの取組には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることが分かり，政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考えるようにする。

2　評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①地方公共団体や国の政治の仕組や働きに関心をもち，意欲的に調べている。 ②政治の仕組や働きと国民生活との関連に関心をもち，国民が政治に関心を高めることの大切さを考えようとしている。	①地方公共団体や国の政治の仕組や働きについて，学習問題や予想，学習計画を考えノートに記述している。 ②地方公共団体や国の政治の仕組や働きと国民生活とを関連付けて考え，根拠を示して説明している。	①資料やインターネットを活用したり聞き取り調査をしたりして，地方公共団体や国の政治の仕組や働きについて必要な情報を集め，読み取っている。 ②調べたことを整理して関係図にまとめている。	①高齢者福祉などの社会保障の取組には，地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解している。 ②国会，内閣，裁判所は，それぞれ大切な働きをしていることや，相互に関連し合っていることを理解している。 ③政治は国民生活

3　指導と評価の計画

ねらい	主な学習活動・内容	評価方法と【評価規準】
市の高齢者福祉の取組に関心をもつようにする。	「税金の使い道」から政治の働きには様々あることを知る。 「人口ピラミッド」から高齢化社会の課題を話し合う。	発言の内容や話合いの様子から，「市の高齢者福祉の取組に関心をもとうとしているか」を評価する。 【関－①】
市の高齢者福祉の政策や取組を調べる学習計画を立てることができるようにする。	市の高齢者福祉の取組を調べる学習計画を考える。 ・高齢者の願い ・計画から実施までの経過	ノートの記述内容から「自分の予想をもち，市の高齢者福祉の取組を調べる学習計画を具体的に記述することができたか」を評価する。 【思－①】

■目標の設定

学習指導要領において政治の働きに関する学習は，アとイの２つで構成されています。事例の小単元は，このうちのアを取り上げた目標と内容になっています。

■評価規準の設定

事例では，評価規準を観点ごとに２つ程度設定しています。これは，目標の実現を図る上で重要な学習活動，評価場面を示していると同時に，評価規準が細かくなりすぎないように意図しているからです。

■評価の観点の焦点化

事例では，ねらいと評価が対応していることが分かります。指導のねらいに即して評価の観点を絞り込んでいるからです。

■評価方法の記述

事例では，評価方法として，「評価資料」（〇〇から）と「評価の目安」（〇〇しているか，〇〇できたか）を記述しています。

評価規準とともに，こうした補足事項を記述することも大切です。

国立教育政策研究所発行「『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料の活用方法について」のパンフレットより引用

1　評価規準の設定と「評価規準作成のための参考資料」

各学校における観点別学習状況の評価が効果的に行われるよう国立教育政策研究所において「評価規準の作成のための参考資料」がとりまとめられました。

「評価規準の作成のための参考資料」では、第１に、各教科の内容のまとまりごとに「評価規準に盛り込むべき事項」が示されています。第２に、単元や題材ごとの評価規準を設定するに当たって参考となるよう、「評価規準の設定例」が示されています。これらを参考にして、各学校において適切な評価規準を設定してください。

■　評価規準を作成する際にすぐに役立つ、参考資料の中の項目

「評価規準に盛り込むべき事項」	単元又は題材等の内容に合わせて作成された評価規準の具体 ※　学習指導要領の各教科の目標、学年等の目標及び内容の記述をもとに、各教科の評価の観点及びその趣旨、学年等別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成された。
「評価規準の設定例」	「評価規準に盛り込むべき事項」を、評価場面等に合わせてさらに具体化したもの

2　評価方法の工夫改善

できるだけ多様な評価を行い，多くの情報を得ることが重要ですが，他方，このことにより評価に追われてしまえば，十分に指導ができなくなるおそれがあります。そこで、例えばワークシート等への記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価にも活用することが可能なので、生徒の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられます。

多様な評価方法
観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト※、質問紙、面接、児童による自己評価、生徒同士による相互評価　等

→ 各教科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童の発達段階に応じて選択 → **評価**

※　ペーパーテストは評価方法の一つとして有効ですが、ペーパーテストにおいて得られる結果が、目標に準拠した評価における学習状況のすべてを表すものではないことに留意しましょう。

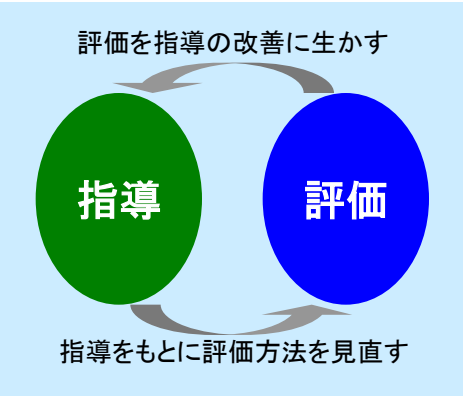
3　評価時期等の工夫

年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理します。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

■　評価時期についての留意点

①　まずは、**日常的**に行われることが重要
②　単元等**ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において**「おおむね満足できる」かどうかを評価することも重要
③　「関心・意欲・態度」については、表面的な状況の評価にならないよう留意するとともに、**ある程度長い区切りの中で適切な頻度で**「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要

4　指導と評価の一体化



学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結びつけることが重要です。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要です。

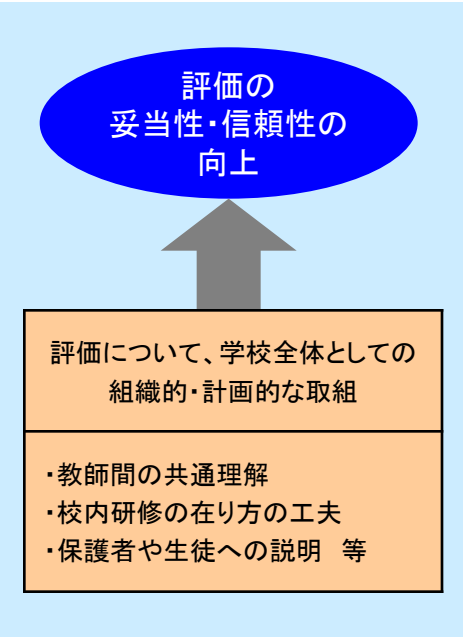
各学校においては、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要です。

5　学習評価の妥当性、信頼性

各学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価として、各学校においては、組織的・計画的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるよう努めることが重要です。学習評価の「妥当性」は、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであることを示す概念です。「妥当性」を確保していくためには、評価結果と評価しようとした目標の間に適切な関連があること（学習評価が学習指導の目標に対応するものとして行われていること）、評価方法が評価の対象である資質や能力を適切に把握するものとしてふさわしいものであること等が求められます。

妥当性、信頼性を高める取組とは…
- 指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定したり、評価方法を工夫したりする。
- 評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい評価方法を選択する。
- 評価方法を評価規準と組み合わせて設定することが必要であり、評価規準と対応するように評価方法を準備する。

6　学校全体としての組織的･計画的な取組



学校全体としての組織的・計画的な取組については、以下の２点に留意してください。

（１）　教師の共通理解と力量の向上

学校全体として評価についての力量を高めるためには、経験年数等に左右されず教師が共通の認識をもって評価に当たることができるようになるよう、評価の方針、方法、体制、結果などについて日頃から教師間の共通理解を図る必要があります。

（２）　保護者や生徒への情報の提供

保護者や生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要です。どのような評価規準、評価方法により評価を行ったのかといった情報を保護者や生徒にわかりやすく説明し、共通理解を図ることが重要となります。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、道筋を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

○　評価の観点はこれまでと変わっていません。

2　評価規準の作成のポイント

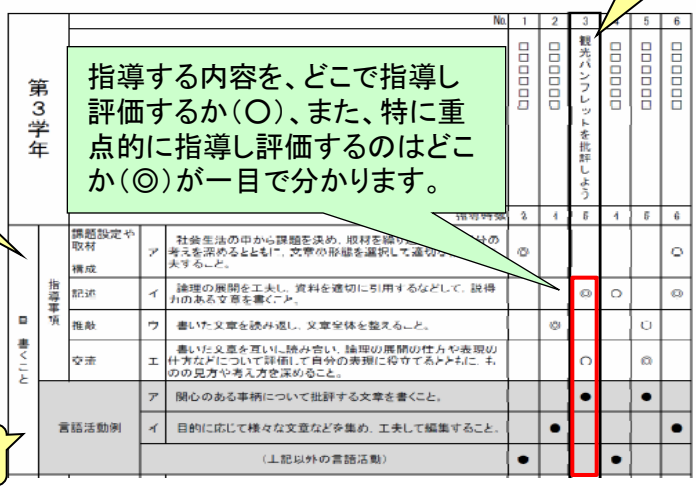
（1）　年間を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定する

国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導し、能力の定着を図ることが基本です。図のような「年間の単元評価重点一覧表」等を活用すると、次のような利点があります。

○学習の系統が一目で分かる。
○指導の重点が分かる。
○既習事項の活用や、学習の見通しを立てるために役立つ。

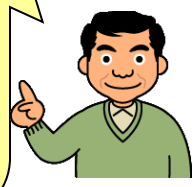
■　年間の単元評価重点一覧表の活用

「年間指導計画表」の例　（第３学年「書くこと」の一部を抜粋）



指導する内容を、どこで指導し評価するか（○）、また、特に重点的に指導し評価するのはどこか（◎）が一目で分かります。

全体に目をやると、どこで何を指導したか、これから何を指導していくかが一目で分かり、指導・評価の見落としや偏りを防げます。
単元計画を考える前には、必ず年間計画（一覧表等）を確認するようにしましょう。



（2）　学習指導要領の指導事項をもとに、身に付けさせたい力を明確にして評価規準を設定する

一つの単元で必ず5観点の評価規準を設けるのではありません。1～2領域の設定が基本です。年間指導計画の見通しのもと、指導事項を精選しましょう。

例えば、「論理の展開を工夫するなどして批評する文章を書く（書くこと）」という目的が明確なことで、生徒がより主体的に「文章の構成や展開、表現の仕方などを評価する（読むこと）」と考えることができます。複数領域を指導するのは、あくまで、その方がより効果的な場合です。

必ず設定	1～2領域の設定が基本	必ず設定
国語への関心・意欲・態度	（書く能力）	言語についての知識・理解・技能
・複数の観光パンフレットの内容や体裁について関心を持ち、批評する文章を書こうとしている。	・パンフレットについての自分の意見が読み手に伝わるような文章構成を考え、パンフレットの内容等を適切に引用しながら、批評する文章を書いている。（イ）	・読み手に自分の考えが伝わるように、適切な語句を選択して使っている。（（1）イ(イ)）

3　評価方法等の工夫改善のポイント

授業の前に

第3学年 「観光パンフレットを批評しよう　～説得力のある文章を書く～」の例で考えてみましょう。
この単元では、「書くこと」の指導事項イ（説得力のある文章を書くこと）や、エ（文章を読み、論理の展開や表現の仕方などを評価し、自分の考えに役立てること）を、「批評する文章を書く」言語活動を通して指導します。
■　**本時の評価規準：「複数の観光パンフレットの内容や体裁について関心を持ち、批評する文章を書こうとしている。」**

（1）　設定した評価規準をもとに、何をもとにして、どのように評価するか、事前に決めておく

どんな評価資料（生徒の反応や作品）の何をもとに、どのような（「おおむね満足できる」状況の判断の）目安で評価するかを考えておきましょう。例えば下のような評価メモを準備すると、客観的で、「目標に準拠した評価」のために有効です。

また、B「おおむね満足できる状況」に達していない生徒に対しての手立てを考えておきましょう。

評価方法と評価する時間だけでは、主観的な評価になりがちです。

ここでは、キーワード①（パンフレットの比較）、②（自分の考え）を決めておき、①のみの場合は（B）と判断し、さらにキーワード②もみられれば（A）と判断することができます。

【評価メモ】

観点	[国語への関心・意欲・態度]①					[書く能力]①					[言語についての知識・理解・技能]①	
キーワード	1パンフレットの比較 2自分の考え		1構成メモの利用 2工夫して書く意欲		単元における評価	1構成メモの工夫 2文章構成・文章の順序		1自分の考えと根拠 2適切な引用		単元における評価	1適切な語句の選択 2言葉のニュアンス	単元における評価
評価の方法	・ワークシート ・観察		・観察 ・文章			・ワークシート ・観察		・ワークシート ・観察			・文章 ・ワークシート	
評価時間	第1時		第4時			第2時		第3時			第5時	
生徒氏名	評価	キーワード	評価	キーワード		評価	キーワード	評価	キーワード		キーワード	
生徒U	A	1+2	A	1+2	A	A	1+2	A	1+2	A	1+2	A
生徒V	B	1	B	1	B	A	1+2	B	1	B	1	B

キーワード

キーワードの達成状況

評価するときは

（2）　設定した評価規準に沿って、適切に生徒の作品などを評価する

考えが記述されていれば何でもよいのではなく、例えば、上の「評価メモ」のキーワードを基に判断し、比較したことや気付いたことを根拠に考えを述べている必要があります。

そして、「おおむね満足できる状況」（B）に達しているかどうかを評価し、達していなければ手立てを講じます。

この生徒は、
①　観点を決めて複数のパンフレットを比較しているので、「おおむね満足できる状況」（B）以上と判断できます。
さらに、
②　比較したことを基に、自分の考えをまとめているので、「十分満足できる状況」（A）と判断できます。

【生徒がまとめたワークシートの例】

項目	食について
パンフレットから気付いたこと	○パンフレット1 ○アイスだけの特集がある。 ○アイスの特徴を一文で記載 ○同じ種類の商品を写真で二十種類掲載している。 ○パンフレット2 ○郷土料理を紹介している。 ○写真と文章での紹介。英語での説明もある。
自分の考え	○見出しの言葉遣いや色遣いから、若い世代を意識して作っているのではないか。 ○視覚に訴えていて、旅の様子を想像しやすい。 ○商品を比較し、選ぶ楽しみがある。 ○このパンフレットだけの情報があり、独自性がある。

留意点として
★【評価規準】にある「内容や体裁」についての記述であること。
★気付いたことについての考えを記述していること。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

（1）　今回変更された点

①　思考・判断し表現することをこれまで以上に重視するために「表現」の位置付けの見直しが行われ、「思考・判断」が「思考・判断・表現」に、「技能・表現」が「技能」に改められました。

2　評価規準の作成のポイント

（1）　各観点のポイント

各観点では、次に示すようなポイントがあります。ポイントに留意して規準をつくりましょう。

関心・意欲・態度
- ○毎時間評価する必要はなく、<u>単元の適切な場面で評価</u>する。
- ○社会参画の態度は、社会に関わろうとする考えなどを評価する。

思考・判断・表現
- ○社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの<u>言語活動を通して評価</u>する。

技能
- ○資料を読み取り、<u>「読み取ったこと」「わかったこと」を書くなどは、「技能」</u>
  資料を読み取り、「考えたこと」「解釈」を書くのは「思考・判断・表現」

知識・理解
- ○機械的・表面的な「記憶」だけでなく、よく考え納得して身に付けた知識であるか、<u>焦点や脈略をもった自分の言葉で表現できているか</u>評価する。

（2）　4観点設定の基本的な流れ

社会科は基本的に内容教科ですので、まず、何を学ばせるのかを明らかにして規準づくりを行います。

① 知識・理解
- 何を学ばせるのか、何を身に付けさせるかを明確にする。
- （例）アフリカの脆弱な経済基盤のようすとその理由を理解させたい。

② 技能
- その知識を身に付けるために必要な技能は何か整理する。
- （例）各国の輸出品や輸入品などの統計を分析する技能が必要だな。

③ 思考・判断・表現
- どのように考え、知識を活用させるか明確にする。
- （例）一次産品の価格が不安定であることをもとに考えさせよう。

④ 関心・意欲・態度
- 学習対象に対する関心や意欲をどう育てるのか明確にする。
- （例）生徒の身近にあるチョコレート（カカオ）を取り上げて追究させよう。

※　②と③は順序が逆になることもあります。

3　評価方法等の工夫改善のポイント

（1）　考えたことを見とれる図などをつかって「思考・判断・表現」を評価する

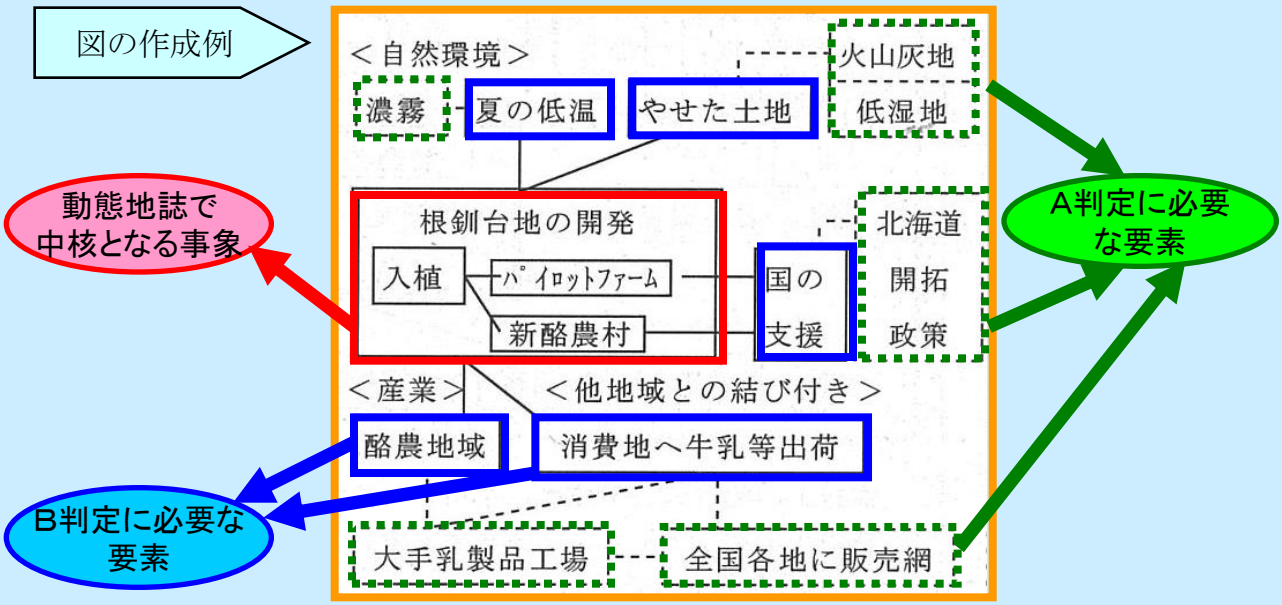
「思考・判断・表現」の観点は、次に示すように、学んだことを関連付けて図示などをさせ、地域的特色を説明させることで評価することもできます。

■　第2学年　単元名「北海道地方」－歴史的背景を中核とした考察－　■

評価規準

北海道地方の産業や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを自然環境、人口と都市・村落、他地域との結び付きなどと関連付けて多面的・多角的に考察している。

図の作成例



B判定

このような図を作成し、次のような説明ができれば、B（おおむね満足）判定です。

「根釧台地は酪農が盛んです。**【産業】**　夏でも冷涼な気候なので稲作や畑作に向かず、**【自然環境、産業】**　国の支援を受け酪農家が入植しました。**【歴史的背景】**　その結果、日本有数の酪農地域となり、牛乳等を東京などの消費地へ出荷しています。**【他地域との結び付き】**」

（2）　評価の重点化・系統化を図る

「日本の諸地域」などの学習では、評価の効率化を図るために、単元毎に重視すべき観点を絞り込むことが考えられます。また、同じ観点では、求める水準を高めていくことも考える必要があります。

（重点化の一例：「日本の諸地域」）

単元名	関心 意欲・態度	思考 判断・表現	技能	知識・理解
九州地方	○	◌	◌	○
中国・四国地方	◌	◌	○	○
近畿地方	◌	○	◌	○
中部地方	◌	◌	○	○
東北地方	◌	◌	○	○
北海道地方	◌	○	◌	○
関東地方	○	○	◌	○

○　表中で、○がついている観　点を中心に評価します。

○　どの地方も地域的特色を明らかにするので、「知識・理解」の観点は毎単元評価します。

○　例えば「技能」の観点では、　中国・四国地方よりも中部地方や東北地方の評価規準がより高い水準になる必要があります。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	数学への関心・態度・意欲	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・技能
趣旨	数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

（1）　今回変更された点

①　「数学的な見方や考え方」の趣旨に「表現し」が加えられました。

②　「表現・処理」を「技能」に改め、「数学的な技能」としました。

2　評価規準の作成のポイント

（1）　評価規準の設定例の活用

1単位時間毎の評価規準を設定する際、参考資料の「評価規準の設定例」を十分参考にしてください。

なるほど、「三角形の内角の和」の学習では、この2つのことを生徒に身に付けさせなくてはいけないんだな！

帰納的な方法と演繹的な方法の違いを理解することは、「証明の意義」を理解することだから、大切にしないといけないな！

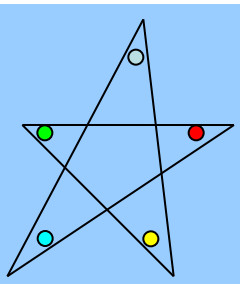
「三角形の内角の和」についての授業における評価規準の設定例

数学的な見方や考え方	数量や図形などについての知識・理解
「三角形の内角の和は180°である」ことなどを、平行線の性質を用いて説明することができる。	「三角形の内角の和は180°である」ことなどを、帰納的な方法で示すことと、演繹的な方法で示すことの違いを理解している。

（2）　教材や活動に即した評価規準の設定

「評価規準の設定例」になかには、そのまま位置づけることができるものもありますが、学習指導の進め方との関係で１つの評価規準を２つ以上に分割して設定することや、学習指導で取り上げる問題や教材等との関係で評価規準を設定することなどが考えられます。

「三角形の内角の和」の学習で、この2つのことをしっかり身に付けさせるには、どのように学習指導を進めればよいだろう？



角の性質の学習が一通り終わったら、星形五角形の角の和をぜひ取り扱いたいな。

この教材に対応する評価規準の設定例は記されてないな。

「三角形の内角の和は180°である。」ことの学習では、「平行線を用いて説明すればどのような三角形も例外なく180°であることが説明できることを**理解する**。」ことに主眼を置いてもよいかな。

「内角の和が180°」での説明は、「○の評価」の場面としてよいかな。
「1つの外角はそれと隣り合わない2つの内角の和に等しい」の学習で生徒に説明を考えさせ、ここを「◎の評価」の評価の場面にしてもよいかな。

このような評価規準が考えられるかな。

関心・態度・意欲	見方や考え方
平行線や角の性質に関心をもち、それを用いて星形五角形の角の和が180°になる理由を考えようとしている。	星形五角形の角の和について予想し、それが正しいことを既習を用いて考えることができる。

3　評価方法等の工夫改善のポイント

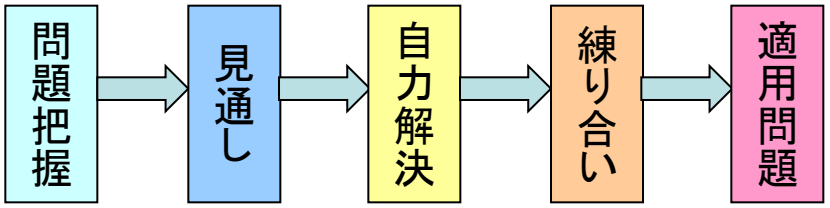
（1）　各観点の特性を踏まえた評価のポイント

数学への 関心・意欲・態度	・小単元等の学習のまとまりで同一の評価規準を設定する。 ・挙手の回数などの量で評価するのではなく、学習の様子の観察、ノートの記述などを基にして評価する。
数学的な 見方や考え方	・考えたり判断したりした過程や結果を、言語活動を通して表現したものと一体的に評価する。 ・学習の様子の観察、ノートなどへの記述、小テストの結果などを基にして評価する。
数学的な技能	・「作図をする」「関数のグラフから式を求める」など、数学における基本的な「読みかき」に関わる事柄を身に付けているかどうかを評価する。 ・ペーパーテストやワークシート等を活用して評価する。
数量や図形などについての 知識・理解	・用語や記号の意味などについての知識だけでなく、問題を解決する手順や方法などについての知識も評価の対象である。 ・ペーパーテストの問題を工夫するなどして評価する。

数学的な見方や考え方を評価する小テストや知識・技能を評価するペーパーテストの問題の工夫は、全国学力・学習状況調査の問題が大変参考になりますし、そのまま評価問題として使えるものもたくさんあります。

（2）「○」の評価と「◎」の評価

「○」と「◎」の2つの評価を単元や授業のなかに適切に設定することがポイントになります。



「○」の評価は授業前半

「◎」の評価は授業後半

※「○」の評価と「◎」の評価は、参考資料P49以降を参照

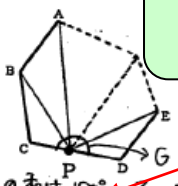
○・・・評価規準に照らして、「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを判断し、「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対して、適切な指導を行うとともに、「十分満足できる」状況（A）にあると判断できる生徒を把握し、必要に応じて単元における総括の資料とする。

◎・・・評価規準に照らして、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）のいずれであるか判断し、把握することを意味するもので、単元における総括の資料とする。

（3）　問題や活動に即した具体的な評価規準の設定

数学的な見方や考え方について評価を行う場合は、生徒に自由に記述させることが多くなると思います。生徒が何と記述したらよいのか、具体的な評価規準を用意しましょう。

生徒の記述



全ての三角形の内角の和は180°　その三角形が、n－1個ある。
これを式にすると、　180×(n-1)
点Pは、CDの辺上にあり、角ではないので、180(n-1)から、角度を引かなければならない。辺CDは、直線で、角Gはその上にある角なので、180°。
これを式にすると、　180×(n-1)－180。となる。
(180(n-1)-180)

3点について記述しており、内容もまとまっているので“A”

※　参考資料P71（多角形の内角の和の例）参照

問題に即した具体的な評価規準

- 三角形の内角の和が180°であることを根拠として用いている。
- n角形が（n－1）個の三角形に分割されることを記述している。
- 点Pのまわりの角180°を除く必要があることを記述している。

「概ねできる満足できる」状況
（2）でイを選択し、その理由として上の3点のうち、2つについて記述することができる。

「十分満足できる」状況
（2）でイを選択し、その理由として上の3点について記述することができる。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
趣旨	自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

（1）　今回変更された点

① 「科学的な思考・表現」は、思考した内容を表現する観点として設定します。

② 「観察・実験の技能」は、基本操作を身に付けるとともに、結果を的確に記録、整理する観点として設定します。

2　評価規準の作成のポイント

（1）　探究的な学習過程に評価規準を設定　　（2）　態度や行動を評価できる文末表現に統一

■ （例）電流と磁界（第2学年）

自然事象への働きかけ
磁界の中で電気ブランコが動く様子を観察する。

関

問題の把握・設定
磁石の磁界の中で銅線に電流を流すとどうなるかな。

予想・仮説の設定
電流の向きと銅線が受ける力の向きにはきまりがある。

思

検証計画の立案

観　察　・　実　験
電流と磁石によって生じる磁界の中の銅線の動きを調べる実験を行う。

技

結果の整理
電流の向きが変わると銅線が受ける力の向きも変わる。

考察（分析・解釈）
銅線が受ける力の向きは電流や磁界の向きによって決まると考えられる。

思

結論の導出
電流の向きを変えたり、磁界の向きを変えたりすると銅線が受ける力の向きが変わる。

知

関

関心・意欲・態度

○　事物・現象を科学的に探究しようとしているかを評価

（例）電流と磁石の磁界に関する事象を観察し、磁石の磁界の中で銅線が力を受けることを科学的に**探究しようとしている**。

思考・表現

○　予想や仮説を自分の言葉で設定できているかを評価

（例）磁石の磁界の中で銅線が力を受ける要因を、磁力線などを使って**表現している**。

技能

○　実験器具などを正しい方法で扱っているかを評価

（例）電流による磁界と磁石の磁界が力をおよぼしあうことを確認し、実験装置を適切に**操作できる**。

○　調べた過程や結果を的確に記録し整理しているかを評価

（例）電流の向きや大きさと磁界から受ける力の様子を的確に**記録している**。

思考・表現

○　実験結果を分析・解釈し、自分の言葉で表現しているかを評価

（例）磁石の磁界の中で電流の向きや大きさを変化させたときに銅線が受ける力の向きや大きさについて図や文で**表現している**。

知識・理解

○　原理や法則等を理解し、知識を身に付けているかを評価

（例）電流の向きや大きさを変えると磁石の磁界から受ける力の向きや大きさに規則性があることを**理解している**。

関心・意欲・態度

○規則性を適用して、自然や実生活を見直そうとしているかを評価

（例）リニアモーターカーが電気と磁石の力で動く様子などを紹介し、電流と磁石による磁界の相互作用の利用について**考えようとしている**。

3　評価方法等の工夫改善のポイント

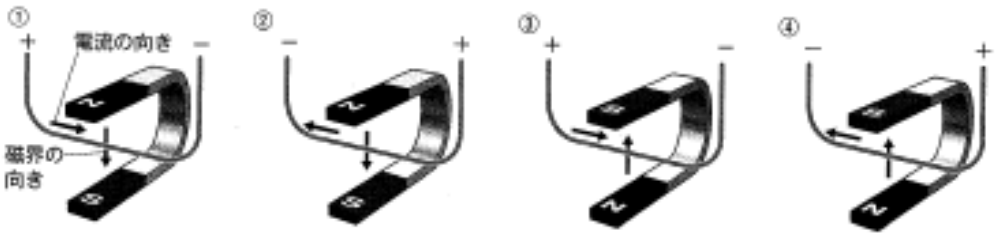
■「科学的な思考・表現」の評価の工夫例（第2学年　単元名「電流と磁界」）

評価規準　銅線に流れる電流の向きや大きさと磁石の磁界の向きや大きさによって電気ブランコが動く向きや大きさに規則性があることを**表現している。**

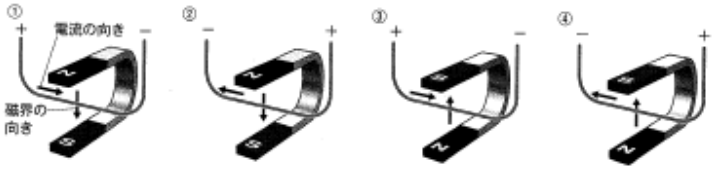
指導のポイント　銅線に流れる電流の向きや磁石の磁界の向きを変えて、銅線が受ける力の向きを**表現させる学習シートの準備**

学習シートの工夫

※電流の向きや磁界の向きを変えると、銅線が受ける力の向きはどうなるか。



生徒の考察

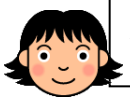


【実　験　結　果】

	①	②	③	④
電流の向き	左→右	右→左	左→右	右→左
磁界の向き	上→下	上→下	下→上	下→上
銅線の動き	奥へ	前へ	前へ	奥へ

【考察】

電流の向きを逆にすると銅線の動きも逆になった。 また、磁界の向きを逆にすると銅線の動きも逆になった。電気ブランコの動きは、電流の向きや磁石の磁界の向きに影響を受けると考えられる。



評価の実際

電流の向きと磁界の向きを入れかえたときに、銅線の動く向きが変わることを説明しているため、

おおむね満足とする(B)

と判定しています。

さらに、

「銅線が磁石の磁界から力を受けて動いた」といった記述が付加されていれば、

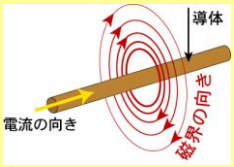
十分満足できる(A)

と判定できます。

教師の手だて

「電流の向きや磁界の向きを変えると、銅線が受ける力の向きはどうなるか」を発問します。

KR情報として、「導線に流れる電流の向きを変えると導線のまわりの磁界の向きが変わったこと」を提供します。



電流の向きと銅線が受ける力の向きを関係付けていない生徒（判定C）には、「①と②の結果の同じところと違うところ」を指摘させ、その結果からわかることを問いかけます。

適切な判定基準を設定し、指導と評価の一体化を図りましょう。

※「科学的な思考・表現」において生徒の行動や記録を分析する視点

- ○既習事項など根拠を基に、観察、実験の結果を予想しているか。
- ○観察、実験の目的に対応して結果を分析して解釈しようとしているか。
- ○結果に基づいて、論理的に考察を進め、自分の考えを導いているか。
- ○文章、その他の方法で、自分の考えを表現しているか。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。

（1）　今回変更された点

① 第2観点「音楽の感受や表現の工夫」が「音楽表現の創意工夫」になりました。
② 第3観点「表現の技能」が「音楽表現の技能」になりました。

2　評価規準の作成のポイント

（1）　「音楽表現の創意工夫」」と「鑑賞の能力」において、「音楽的な感受」を評価していく（みていく）

これまで、第2観点に示されていた「音楽的な感受」という言葉が消えて、第2観点と第4観点に、下線部の「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら」という「音楽的な感受」に相当する部分が示されています。
これは、「音楽的な感受」を第2観点と第4観点の両面から評価していくととらえます。つまり・・・

「A表現」領域の評価は、
「音楽への関心・意欲・態度」
「音楽表現の創意工夫」
「音楽表現の技能」
の３つの観点で評価していきます。

「B鑑賞」領域の評価は、
「音楽への関心・意欲・態度」
「鑑賞の能力」
の２つの観点で評価していきます。

（2）　「何を評価するのか」具体化し、育む資質能力を明らかにしておく

「評価規準に盛り込むべき事項」に示された「音楽を形づくっている要素」等のうち、題材の学習活動・内容にふさわしいものを残し、「この題材で、どの様な力をねらっていくのか」、「生徒たちが何を知覚・感受できればいいのか」を明らかにしておくことが大切です。

■「評価規準作成のための参考資料」（国立教育政策研究所）を活用して評価規準を設定した事例〔第2学年 A表現・歌唱〕

「指導と評価の計画」作成の手順

①題材の目標を設定する

↓

②指導計画を作成する
～学習活動と流れを考える～

↓

③題材の評価規準を作成する
～「評価規準の作成のための参考資料」を活用する～

題材の評価規準を作成する
「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」を活用して

「A表現・歌唱」評価規準の設定例

「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化した「評価規準の設定例」をもとに評価規準を導き出す。

第2学年【「A表現・歌唱」の評価規準の設定例】

《音楽表現の創意工夫》

・「荒城の月」，「早春賦」の~~音楽を形づくっている要素（音色，リズム，テクスチュア，~~強弱~~，形式，構成など）~~を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞~~の内容~~が表す情景や心情，~~や曲想~~曲の表情や味わいを感じ取~~味わ~~って曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

【リズム】（※1）~~拍や~~拍子~~，リズム・パターンとその反復や変化，拍節的なリズムや拍節的でないリズム，我が国の伝統音楽に見られる様々なリズム，間など~~

【旋律】（※2）音のつながり方や~~，旋律のもつ方向性，~~フレーズ~~，旋律装飾，旋律が基づくところの音階，調など~~

↓

・「荒城の月」，「早春賦」の拍子，速度，旋律の音のつながり方やフレーズ，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞が表す情景や心情，曲の表情や味わいを感じ取って曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

3　評価方法等の工夫改善のポイント

（1）　指導と評価の計画を立てることで、効率的・効果的な評価をする

例に示しているように、適切な評価を行うためには、題材の

① どの場面（どの領域・時間）で、
② どの音楽活動で、
③ 何（どのような生徒の姿・表現内容）を、
④ どのような方法で、

見取るのか、ポイントを押さえた指導と評価の計画を立てておくことが大切です。

3　指導と評価の計画（４時間）

時間	◆ねらい　○学習内容　・学習活動	評価規準・評価方法：音楽への関心・意欲・態度	評価規準・評価方法：音楽表現の創意工夫	評価規準・評価方法：音楽表現の技能
1	◆「荒城の月」，「早春賦」の歌詞が表す情景や心情，曲の表情や味わいなどに関心をもつ。			
	○「荒城の月」，「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ・「荒城の月」，「早春賦」のＣＤを聴いて，曲[illegible]などを[illegible] ・「荒城の月」，「早春賦」それぞれの１番について，歌詞を音読したり歌ったりして，歌詞が表す情景や心情，曲の雰囲気などを〈ワークシートⅠ－①〉に書く。 ※ワークシートは本事例の最終頁（p.44）を参照 ・書いたことを基にして学級全体で発表し合い，他の生徒の意見でよいと思ったことも〈ワークシートⅠ－①〉に書き加える。 ○「荒城の月」，「早春賦」の音楽的な特徴の相違点などに気付く。 ・「荒城の月」の１～４番の歌唱活動を通して音楽的な特徴に気付くとともに，「早春賦」の１番を歌い，二つの曲を比べながら相違点などを考えてワークシートⅠ－②に書く。（第２時以降の学習に生かす。）	①「荒城の月」，「早春賦」の歌詞が表す情景や心情，それぞれの曲の表情や味わいに関心をもっている。〈ワークシートⅠ－①〉		

《題材》
どの場面
(時間)で

どんな学習活動で

《評価規準》
・何を見取るか
・目指す姿

《評価方法》
何で見取るか

（2）　評価の妥当性、信頼性を高めるために、各学校において、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定し、評価方法を工夫する

音楽科における評価のあり方~評価の実際～

※　国立教育政策研究所
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」から

「音楽への関心・意欲・態度」の評価規準
「荒城の月」「早春賦」の歌詞が表す情景や心情、それぞれの曲の表情や味わいに関心をもっている。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

感じ取ったことを自分なりの言葉で書き、かつ、「他者の意見から」も書いているか。

評価の妥当性を高めるために、評価規準の「おおむね満足できる」と判断するポイントや生徒の姿をより具体的にしておくことが大切です。

【ワークシートⅠ】

		「荒城の月」	「早春賦」
①	歌詞が表す情景や心情，曲の雰囲気など	昔を懐かしがっている ゆったりとした悲しい感じ 〈他者の意見から〉 物静かな感じの中にも，とても力強さがある	春を待っている様子が感じられる 流れるようだ 〈他者の意見から〉 喜んでいるような雰囲気と，残念な気持ちの両方があって，優しい感じ
②	それぞれの音楽的な特徴【拍子，速度，旋律の音のつながり方やフレーズ，強弱などに着目】	・淡々としたリズム ・速度はゆったりしている ・短調の旋律である ・一音一音がつながるように動いていく	・リズムが生き生きしている ・旋律が上がったり，下がったりして，休符がない ・少しゆっくりになったり，強弱が突然変わったりする

さらに、評価の信頼性を高めるために、「十分満足できる」と判断するポイントも示しておくといいですね。

美術科 ①

1 評価の観点とその趣旨 （平成22年5月文部科学省通知）

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

（1） 今回変更された点

① 結果よりプロセス（過程）を大切に評価しようとする表現（「…しようとする」→「…しようとしている」）に変わりました。

② 〔共通事項〕との関連を大切に評価しようとする表現（「感性や想像力（造形感覚）を働かせて…」）に変わりました。

2 評価規準の作成のポイント

（1） 学習活動の過程に評価規準を設定

■ 学習活動の過程と評価の場面(例)

1 課題の把握と鑑賞
関3 鑑

2 表現の発想・構想
関1 発

3 制作
表現方法の工夫
関2 創
構想の改善
発 創

4 鑑賞
関3 鑑

○ 授業外
発 創 鑑

※「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善に関する参考資料」（国立教育政策研究所）の評価に関する事例2「お菓子のパッケージデザイン」を参考

（2） 行動や態度を評価できる文末表現に統一

美術への関心・意欲・態度

関1 分かりやすさや美しさなどを考えて構想を練ろうとする意欲や態度を評価
（例）表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。

関2 表現しようとする意欲や態度を評価
（例）～の特性を活かし、表現方法を工夫しようとしている。

関3 鑑賞することに関わろうとしているかを評価
（例）～に興味・関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。

「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」と合わせて活動全体を通して見取りましょう。

発想や構想の能力

発 形や色彩の効果を考えながら表現の構想を練っているかを評価
（例）～形や色彩の効果を生かして表現の構想を練っている。

創造的な技能

創 表現意図に合う材料を工夫して使っている状況を評価
（例）～の特性を活かし、表現方法を工夫するなどして表現している。

具体的な評価の場面を決めて見取りましょう。

鑑賞の能力

鑑 作品の工夫について根拠を基に発言しているかなどを評価
（例）～について自分の価値意識をもって、味わっている。

参考作品や他者の作品などから見取りましょう。

発 創 鑑 完成作品やワークシートなどから再度評価

学習活動全体を見直し、授業の中での評価より高まりがあれば修正を加えましょう。

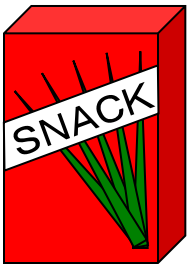
3 評価方法等の工夫改善のポイント

（1） さまざまな **評価方法** の中から生徒の資質や能力を多面的に評価しましょう

■ 「お菓子のパッケージデザイン」における評価の実際

関連させて評価する

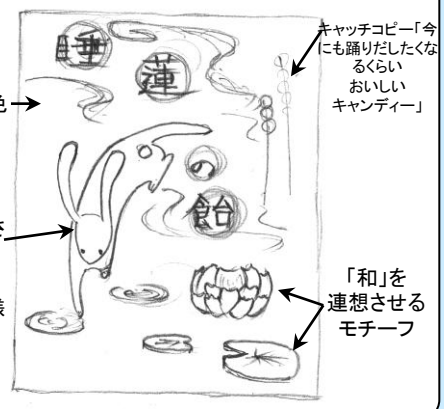
ワークシート



・いろいろなパッケージがあって面白いなあ。
・辛い感じのお菓子には赤や黒、ギザギザが使ってあるんだな。

「考えたい」「アイデアを深めたい」と意欲を高める題材に！

アイデアスケッチ（例）



生徒の思考の流れが分かるアイデアスケッチは評価材料の宝庫！

制作途中・完成した作品

表現意図に合う表現方法を工夫しているか制作の様子から見てみましょう

鑑賞カード

私はこの作品で、**和風の上品なお菓子のパッケージ**を作りました。季節感を出して、20代から30代の女性がカバンからこのお菓子が見えて和んだり、このお菓子を食べて癒されたり、ちょっとした親へのプレゼントにしたいなと思わせるようなパッケージにしました。

「睡蓮の飴」は、**春らしい桃色**で柔らかい**マーブル模様の和紙**を土台に、渋い印象の“和”に**かわいらしさをプラスするために白ウサギが跳ねている絵を描き**、「踊り出したくなるおいしさ」を表しました。

生徒が伝えようとするデザインのイメージや意図などが作品から伝わってくるか，客観的な視点で読み取ることが大切！

評価規準　発想や構想の能力

お菓子の味やイメージなどの伝えたい内容を多くの人々に伝えるために，形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え，表現の構想を練っている。

教師の評価

伝えたい和風の上品なお菓子のイメージを，「形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え，表現の構想を練って」いるので、

おおむね満足（B）

さらに

形や色彩の効果を考え，単純化や省略，強調するなど，洗練された美しさを踏まえて構想を練っていれば

十分満足（A）

評価方法は他にも…

- ワークシート
- 制作記録カード
- 制作の様子
- 鑑賞の様子
- 発言内容
- 話し合いの様子　等

保健体育科 ①

1 評価の観点とその趣旨 （平成22年5月文部科学省通知）

観点	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
趣旨	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

（1） 今回変更された点

① 体育の「評価の観点」（4つ）は、これまでと変わっていません。

② 「体つくり運動」の内容は、「（1）技能」ではなく「（1）運動」であり、出来ばえや伸びを評価するのではなく、課題に応じて運動を組み合わせたり運動の計画を立てたりしたことを、主に「運動についての思考・判断」として評価します。

2 評価規準の作成のポイント

（1） 評価規準の設定における基本的な考え方

評価規準の設定の手順

〈手順1〉
学習指導要領の内容の分析
保健体育科の目標の設定

「運動に親しむ資質や能力」、「健康の保持増進」、「体力の向上」の3つの視点から生徒の実態を基に保健体育科の目標を設定します。

〈手順2〉
単元目標の明確化

運動に積極的に取り組む態度や課題に応じた運動の取り組み方を工夫する思考判断など、各単元で確実に身に付けさせたい資質や能力を明確にします。

〈手順3〉
学習活動・学習内容・学習方法等の工夫

今もっている力で運動を楽しんだり、仲間と協力して、新しい技に挑戦したりするなど、単元における具体的な学習活動や方法等を工夫し、単元の評価規準や学習活動に即した評価規準を作成します。

〈手順4〉
評価規準の設定
単元の評価規準や学習活動に即した評価規準の設定

単元の目標を評価するためのよりどころが「単元の評価規準」であり、単位時間の授業における目標を評価するためのよりどころが「学習活動に即した評価規準」となります。

これらの活動は学校全体で組織的に行うことが大切です。一人の教師だけで行うものではありません。

3　評価方法等の工夫改善のポイント

（1）　学習評価を行う前に明らかにしておくべきこと

① 本単元（本授業）で生徒に身に付けさせたいことは何か。　【指導内容の明確化・重点化】
② そのことに向けてどのように単元（授業）を仕組み、指導するか。　【指導法の工夫】
③ 指導の結果、身に付けさせたいことが身に付いたか。　【評価規準を用いた到達度の把握】
④ 身に付かなければ、どのような改善（支援）を図っていくのか。　【指導の改善、個への支援】

（2）　評価機会に着目した「指導と評価の計画」の作成

① 観点ごとに作成した「学習活動に即した評価規準」を、学習の流れの中で、指導内容や指導する機会と連動させ、効果的・効率的な評価機会を計画し、評価結果の妥当性、信頼性等を高めることを目的に、指導と評価の計画を作成します。

1 「運動についての思考・判断」、「運動についての知識・理解」の観点は指導後、間をあけずに評価機会を設定する。
2 「運動への関心・意欲・態度」、「運動の技能」については、指導後一定の期間を設け適切な時期に評価機会を設定する。
3 観察により実現状況を判断する場合、可能なものは一つの観点に複数回の評価機会を設定し、妥当性を高めようする。
4 観察により実現状況を判断する場合、一単位時間に複数の観点の評価機会を設定しないようにする。
5 「運動への関心・意欲・態度」、「運動の技能」の実現状況は教師の観察による判断を中心に、「運動についての思考・判断」、「運動についての知識・理解」の実現状況は学習カードの記載内容を中心に判断の材料とする。

② 指導と評価の計画の例　　国研参考資料（体育分野）事例　球技（ネット型：ソフトテニスのなか9時間を参照）

時	ねらい・学習活動	関心意欲態度	思考判断	運動の技能	知識理解	評価方法
4	ねらい 〇基本的なラケット操作とボールを持たないときの動きの学習を通して、自分の課題を見つけよう。 学習の重点 返球方向へのラケット面作り　仲間の学習を援助する意義 運動の行い方のポイントを身に付けること	①			①	観察
5	1　活動Ⅰ　基本的なラケット操作を身に付ける。 ・基本的なラケット操作とボールを持たない動きを身に付けるためのポイントを理解し、課題を見つけ、仲間と協力して学習する。			②		
6			①			
7						
8	学習の重点 サービス　空いた場所への打返し　ボールや相手への正対 運動の行い方のポイントを見付けること	③			①	学習カード
9	2　活動Ⅱ　ラケット操作とボールを持たない動きを身に付ける。				①	
10	・活動Ⅰを応用し、仲間と協力したり課題解決を図ったりしながら習熟を図る。　（テニスボール）			④	①	
11						
12	3　活動Ⅲ　課題解決へ向けたゲーム 〇　4人ゲーム、3人ゲーム、サービスコートゲーム　他			③		

単元の評価規準　　※表中の〇数字は学習活動に即した評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
①分担した役割を果たそうとしている。 ②作戦などについて話合いに参加しようとしている。 ③仲間の学習を援助しようとしている。 ※②は、単元のまとめで評価する。	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ③学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 ※②③は、単元のまとめで評価する。	①相手コートの空いた場所にボールを返している。 ②サービスでは、ボールをラケットの中心付近でとらえている。 ③ボールを返す方向にラケット面を向けて打っている。 ④ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対している。 ※①は、単元のまとめで評価する。	①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。 ※②は、単元のまとめで評価する。

〈関心・意欲・態度〉
授業中の生徒の観察から実現状況を判断するためある程度の期間を置くようにします。ただし、他の観点と評価機会が重ならないようにします。

〈思考・判断〉
学習資料・カードを用いて指導を行い、指導した時点でのカードへの記載内容から実現状況を判断する ようにします。

〈運動の技能〉
指導後、技能が安定して再現できるようになるには一定の期間を置く必要があるため、生徒が主体的に活動を進められるようになってから、練習や発表の場面に、評価機会を設けるようにします。

〈知識・理解〉
主に授業終了後に学習カード等から実現状況を判断し ます。

技術・家庭科（技術分野）①

1 評価の観点とその趣旨 （平成22年5月文部科学省通知）

観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
趣旨	生活や技術について関心を持ち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解している。

（1） 今回変更された点

① 多様な技術を4つの観点（材料と加工・エネルギー変換・生物育成・情報）から整理し、すべて必修となりました。また、各内容については「基礎的な知識、重要な概念」「技術を活用した製作・制作・育成」「社会・環境とのかかわり」で構成します。

② ものづくりを支える能力育成を重視します。また、技術を評価・活用する能力育成のため、安全・リスクの問題を含めた技術と社会・環境との関係や倫理観の育成が重要です。

③ ガイダンス的な内容を設定し、他教科等との関連を明確にします。

2 評価規準の作成のポイント

（1） 各観点のポイント

各観点では、次に示すようなポイントがあります。ポイントに留意して規準をつくりましょう

- 関心・意欲・態度 → 提出物、発言回数、授業態度など、表面的な状況のみでなく、発言や学習カードの内容などから生徒の思いや願いを読みとる工夫をしましょう。
- 工夫し創造する能力 → できあがった作品のみでなく、製作図・回路図・フローチャートなど、生徒の考えを読みとる工夫をしましょう。
- 技能 → 製作品をつくる技術のみでなく、作業の観察や実技テストなど、多面的に評価をする工夫をしましょう。
- 知識・理解 → ペーパーテストや学習カードの得点や提出状況のみでなく、記入内容などから技術と社会との関わりの理解を読みとりましましょう。

（2） 履修学年や指導内容の適切な配列と評価規準の作成

内容のまとまりA～Dの各項目に適切な授業時数を配当するとともに、3学年間を見通して履修学年や指導内容を適切に配列し、3年間を見通した評価規準を作成します。

- 地域・学校の実態に応じて → 学校行事等との関連を図ります
- 生徒の発達段階に応じて → 評価規準の高まりを目指します
- 他教科との関連を考慮して → 理科・道徳などと関連付けます

そのためにはガイダンスの設定が重要です。

いずれかの項目を複数回に分けて配置することも可能です。その際、評価規準の高まりを考慮しながら作成してください。

（3） 評価規準の設定例等の活用例

評価規準の設定例

製作品やその構成部品の適切な寸法などを決定している

第1学年 → 小物入れの寸法と木材の接合方法を決定している

第2学年 → 使用する材料、製作品の寸法と形状、接合方法、塗装方法を決定している

生徒の発達の段階や興味・関心を考慮して、評価規準の内容を高めていきましょう

3 評価方法等の工夫改善のポイント

（1） 評価し活用する能力と態度育成のための指導・評価の例

「技術のものさしワークシート」を利用し、技術の「プラス面とマイナス面」を視覚的に対比しながら評価・活用について深めていく学習活動の例です。

1. 課題に対しての自分の考えを、プラスマイナスの度合いを位置で表しながら記入していく。

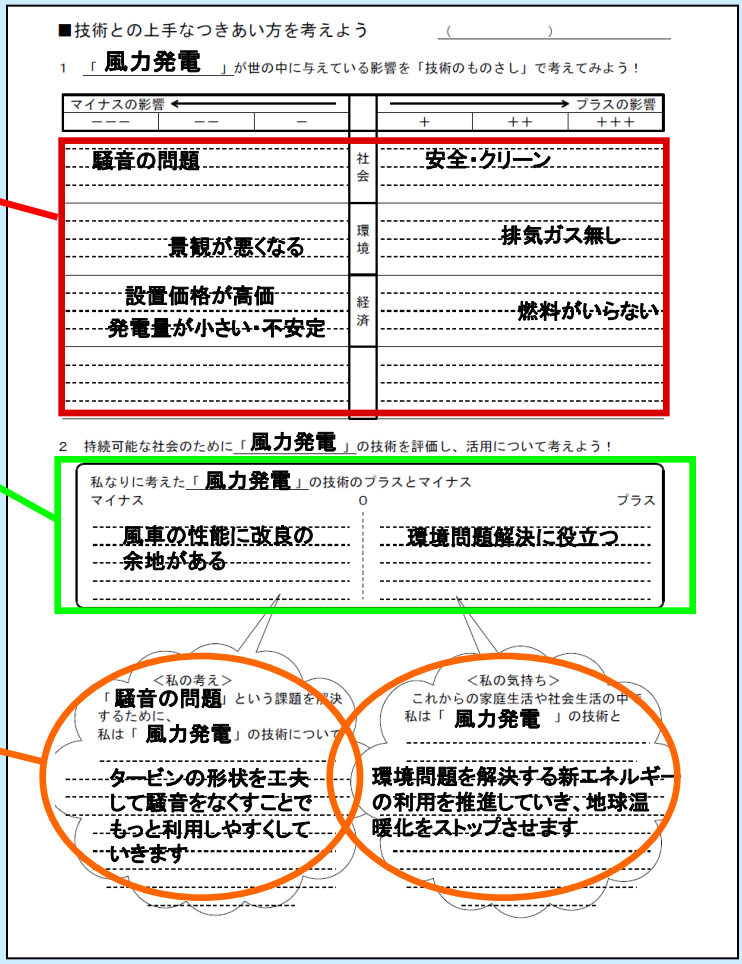
マイナス面はなかなか思いつかなかったけど、先生からヒントをもらって書きました

2. 書き込んだ内容をもとにグループ内で話し合い、深めていく。

みんなと話し合ううちに考えが少し変わりました

3. 課題解決の方法やこれからの生活の中での技術とのつきあい方について自分の考えをまとめていく。

「私の考え」を読んで、生徒の考えをくみ取り、創意・工夫等の評価に役立てます



■技術との上手なつきあい方を考えよう　（　　）

1 「風力発電」が世の中に与えている影響を「技術のものさし」で考えてみよう！

マイナスの影響 ←―				―→ プラスの影響		
―――	――	―		＋	＋＋	＋＋＋
騒音の問題			社会	安全・クリーン		
景観が悪くなる			環境	排気ガス無し		
設置価格が高価			経済	燃料がいらない		
発電量が小さい・不安定						

2 持続可能な社会のために「風力発電」の技術を評価し、活用について考えよう！

私なりに考えた「風力発電」の技術のプラスとマイナス

マイナス	0	プラス
風車の性能に改良の余地がある		環境問題解決に役立つ

＜私の考え＞
「騒音の問題」という課題を解決するために、
私は「風力発電」の技術について
タービンの形状を工夫して騒音をなくすことでもっと利用しやすくしていきます

＜私の気持ち＞
これからの家庭生活や社会生活の中で
私は「風力発電」の技術と
環境問題を解決する新エネルギーの利用を推進していき、地球温暖化をストップさせます

（2） 評価するうえでの留意点

評価には客観性と説明責任が重要です

■ 客観的な判断材料の蓄積と整理が大切です

観点別評価と評定をリンクさせます

■ 観点別評価が評定を行うための基本的な根拠となります

４つの観点のバランスをとります

■ 内容のまとまりごとに、各評価規準の割合がほぼ均等になるようにします

※学期ごとの評価の総括については、実習等の進捗状況によっては、4つの観点の評価規準のバランスが取れない場合もあります。

技術・家庭科（家庭分野）①

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
趣旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

（1）　今回変更された点

① 「生活や技術への関心・意欲・態度」の趣旨に、「これからの生活を展望して」が追加されました。

② 「生活を工夫し創造する能力」の趣旨で、「創造する」が「創造している」に変更されました。

③ 「など」は、「D身近な消費生活と環境」の内容を指しています。

2　評価規準の作成のポイント

（1）　3年間を見通した指導と評価の計画

① 3年間で段階的に題材を配列し、各題材で重点を置く指導内容を明確にしておく必要があります。

② 「題材の評価規準」は、複数の内容の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にして選んだり組み合わせたりして設定します。

■　2学年間を見通した題材配列の例

（第1学年～第2学年）

学年		1年				2年
題材		考えよう中学生の栄養の特徴	地域の食材とさつま汁の調理	魚の栄養とムニエルの調理	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞｽﾃｰｷの調理と1日分の献立	食生活を豊かにするお弁当
時間		4	8	6	10	4
指導項目	(1)中学生の食生活と栄養	ア イ				
	(2)日常食の献立と食品の選び方	ア	ア ウ	ア ウ	イ ウ	
	(3)日常食の調理と地域の食文化		ア イ	ア	ア	ウ
実習題材			さつま汁・地域の食材を用いた和え物・煮物	ムニエル付け合わせ	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞｽﾃｰｷを主菜とする1食分の調理	中学生の栄養を満たすお弁当
(3)ア 調理操作	洗い方		◎	○	○	
	切り方		◎	○	○	
	煮る		◎			
	焼く			◎	◎	
	炒める			◎		
	調味・計量		◎	○	○	
	盛り付け・配膳		○	◎	◎	
	食品の取扱い			◎	◎	
	調理用具の取扱い		○	◎	○	
	熱源の取扱い		◎	○	○	

特に、「B食生活と自立」の(3)「日常食の調理と地域の食文化」及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)「衣生活、住生活などの生活の工夫」では、平易なものから段階的に学習できるよう計画することが大切です。

（◎は重点を置くもの）

■　題材の評価規準の設定例

題材名　「ハンバーグステーキの調理と１日分の献立

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
ハンバーグの調理や食品の選び方と１日分の献立について関心をもって学習活動に取り組み，食生活をよりよくしようとしている。	ハンバーグの調理や食品の選び方と１日分の献立について課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫している。	ハンバーグの調理や食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	ハンバーグの調理や食品の選び方と１日分の献立に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
評価規準に盛り込むべき事項・評価規準の設定例	B (2) イ 中学生の１日分の食事のとり方に関心をもち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。	(2) イ 中学生の１日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量をみたすために食品の組み合わせについて考え、工夫している。		(2) イ 中学生に必要な栄養量を満たす１日分の献立の立て方について理解している。
		(2) ウ 用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。	(2) ウ 身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。	(2) ウ ・生鮮食品と加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。 ・食品の選択における観点について理解している。
	B (3) ア ・日常食の調理に関心をもち、調理技術を習得しようとしている。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。	(3) ア 基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。	(3) ア ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。	(3) ア ・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 ・食品や調理用具の安全と衛生に留意した取扱い方について理解している。

参考資料の内容

左で明確になった指導内容をもとに、「参考資料」から、必要な内容を選んだり組み合わせたりして、題材の評価規準を設定します。

3　評価方法等の工夫改善のポイント

（1）「生活を工夫し創造する能力」の評価方法の工夫

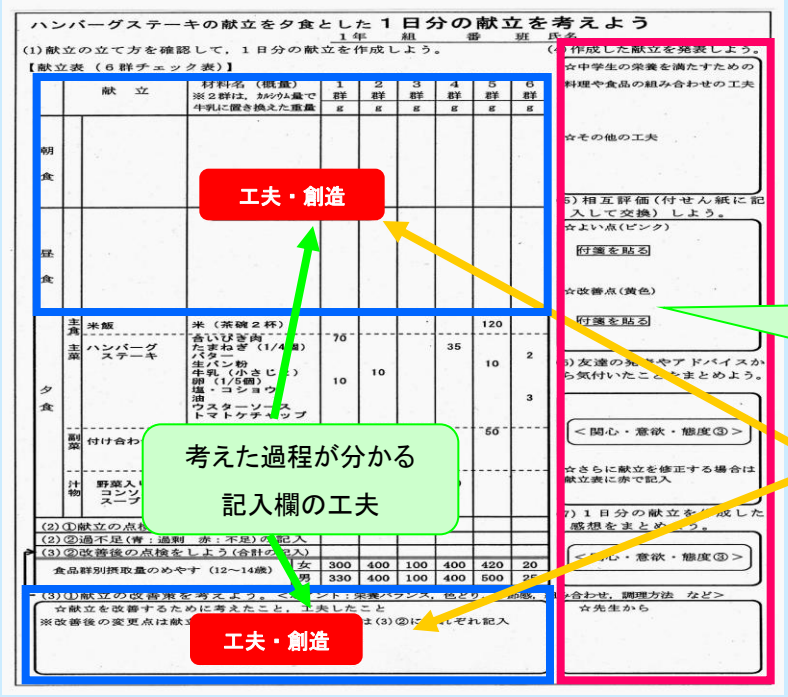
作品など「結果としての工夫し創造する」だけではなく、「生徒が自分なりに工夫した過程」を含めて評価しましょう。

具体的には、

① 工夫した過程が表れる評価場面を設定しましょう。

② 計画表や実習記録表などの記入欄を工夫するなど、言語を中心とした表現活動を通して、生徒が考えた過程を把握できるようにしましょう。

■ 工夫した過程を評価した例【ハンバーグステーキの献立を夕食とした1日分の献立表】



本時の評価規準

中学生の１日分の献立について、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせを工夫している。

この学習カードは、献立の立案、点検、改善発表、相互評価、感想という一連の活動における生徒の思考の流れが把握できるような構成となっています。

献立表の記述内容と「献立を改善するために考えたこと、工夫したこと」の記述内容から評価します。

※献立を栄養量の過不足だけでなく、それ以外の観点（旬や地域の特産物など）についても考えたり、日常の食生活に結びつけて考えたりしていることを判断のポイントしましょう。

（2）「生活の技能」の評価方法の工夫

「指導に生かす評価」、「評価結果として記録する評価」など評価の目的を明確にし、繰り返し見取ることによって、技能の定着を図りましょう。

■ 目的を明確にして評価した例【「ハンバーグステーキの調理と1日分の献立」おける「生活の技能」の評価例】

ハンバーグの実習

観点			生徒氏名	１回目 月　日	２回目 月　日
ハンバーグ	下準備		①材料を適切にこね，均一に混ざっている。		B
			②焼き上がりの変化を考えて成形している。		B
	加　熱		③加熱方法（火加減）が適切である。	C	B
	できばえ	色	④表面に適度な焼き色が付いている。	C	B
			⑤中心まで火が通っている。	C	B
		形	⑥小判形で，厚さが均一である。		B
	盛り付け・配膳		⑦ハンバーグと付け合わせの量や盛り付ける位置が適切である。		C
	備考・その他気づいた			表面は焦げ，中は生焼けである。	焼き色はやや薄い。付け合わせの量が多い。
				C	B

評価結果として記録する評価（２回目の実習）

※教師の評価以外にも、１回目の実習と同じ評価項目について自己評価を行うことにより生徒自身が技術の向上の状況を確認できるようにします。

焼き方見本

	例　○　できた	例　△できなかった
表面		
中心		

※調理の技術は、繰り返し行うことで定着します。（2回の調理実習）

指導に生かす評価（１回目の実習）

※「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の把握とその手立てを考えるための評価として位置づけます。

（一人調理）

焼き方見本（写真）を見せたり、フライパンの扱い方や火加減を示したりするなどして調理の技術が身に付くようにしましょう。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

（1）　今回変更された点

①　観点の示し方が「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」となり、外国語を用いて行う活動を評価することが明確になりました。

2　評価規準の作成のポイント

（1）　小学校外国語活動との関連から

小学校外国語活動の評価の観点	中学校外国語活動の評価の観点
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションへの関心・意欲・態度
外国語への慣れ親しみ	外国語表現の能力 外国語理解の能力
言語や文化に関する気付き	言語や文化についての知識・理解

小学校外国語活動で、どのような活動を行い、どのような表現や単語が用いられているのかを把握し、指導の連続性を図ることが大切です。

（2）　評価の際に留意すること

■コミュニケーションへの関心・意欲・態度

コミュニケーションに取り組む様子や継続させようとする努力の様子がみられるかどうかを評価します。その際、用いられている英語の正確さや適切さ、運用上の能力などは評価しません。

■外国語表現の能力

自分の考えや気持ち、事実などを誤解なく相手に伝えることができるかどうかを評価します。

■外国語理解の能力

相手の意向や具体的な内容など、相手が伝えようとすることを理解できるかどうかを評価します。

■言語や文化についての知識・理解

知識や理解がコミュニケーションを目的として言語を運用する支えになっているかどうかを評価します。

3 評価方法等の工夫改善のポイント

（1） 単元の評価規準（例）

■ 事例1　単元名　ナイアガラの滝　　1学年「話すこと」

＜単元の目標＞
①町や観光地を口頭で案内する。
②ペアワークにおいて、間違うことを恐れず話す。
③助動詞canを用いた文の構造を理解する。
④疑問詞whenを用いた文の構造を理解する。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペアワークにおいて、間違うことを恐れず話している。	①町や観光地を口頭で案内することができる。	この観点では評価しない。	①助動詞canを用いた文の構造を理解している。 ②疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。

○単元の目標に対応した内容にします。
○必要以上に設定しないようにします。
○評価しやすいように具体的な姿で書きます。

（2） 観点別評価の進め方（言語や文化についての知識・理解の場合の例）

＜評価規準＞
疑問詞whenを用いた文の構造を理解している。（言語や文化についての知識・理解）

評価方法：ペーパーテストで疑問詞whenを用いた文の構造の理解度をチェック

＜ペーパーテスト＞
①誕生日をききたい。
②今日はいつなら時間があるか。
③テニスをするのはいつか。

B 「おおむね満足できる」と判断した具体例
①When is birthday?
②When are you free?
③When do you play tennis?

＜判断理由＞
いずれも「When＋疑問文の語順」で書けていることから、文の構造を理解していると考えられる。

※①のyourや②のtodayの脱落など、ターゲット以外の誤りは評価の対象としません。

（3） 評価規準に盛り込むべき事項

それぞれの観点に盛り込むべき事項が、二つあります。詳しくは「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校　外国語）を参照してください。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
言語活動への取組	正確さ	正確さ	言語についての知識
コミュニケーションの継続	適切さ	適切さ	文化についての理解

総合的な学習の時間 ①

1　評価の観点とその趣旨（平成22年5月文部科学省通知）

（1）観点別の学習状況評価を基本とします

総合的な学習の時間の評価についても、観点別の学習状況評価を基本とします。あらかじめ　いくつかの観点を設定しておくのは、資質や能力及び態度がどのようにはぐくまれ、何を学び取っているのか等、学習の進歩や成長の状況をバランスよく総合的に判断するためです。

（2）評価の観点は各学校で設定します

評価の観点は、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて設定します。文部科学省通知（平成22年5月11日）では、以下の観点を例示しています。

① 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標に基づいた観点の設定

例　「よりよく問題を解決する資質や能力」
「学び方やものの考え方」
「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」
「自己の生き方」　など

総合的な学習の時間の目標の実現状況の評価に直接的につながる。

「自己の生き方を考えることができる」について、その実現状況を評価する。

② 「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかわりに関すること」などの視点に沿って各学校で定めた、育てようとする資質や能力及び態度に基づいた観点の設定

例１
「学習方法」
「自分自身」
「他者や社会とのかかわり」

例２　「課題設定の力」（学習方法）
「情報収集の力」（学習方法）
「将来展望の力」（自分自身）
「社会参画の力」（他者や社会とのかかわり）

実現したい生徒の姿を想起しやすい。

観点間の重複が生じにくい。

③ 各教科の評価の観点との関連を明確にした観点の設定

例　学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」
「思考・判断・表現」
「技能」
「知識・理解」　など

各教科との関連が明確になる。

学習課題や学習対象、学習事項などの内容についての実現状況を評価しやすい。

（3）顕著な事項を文章で記述します

総合的な学習の時間の記録については、その時間に行った学習活動と各学校が定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒のよさや成長の様子など顕著な事項を文章で記述します。

（例）では、3つの観点のうち特に、「学習方法に関すること」の観点から、「幼稚園での職場体験活動を 振り返り、「働くことの喜びは、子どもと保護者の喜ぶ顔を見ること」という先生方の話と自分自身の新たな気付きを組み合わせて、追究課題の答えを考えることができました。」と記述しています。

単元「働くということと向き合ってみよう」（例）

学習活動	観点	評価（生徒のよさや成長の様子）
働くということと向き合ってみよう	【学習方法に関すること】	幼稚園での職場体験活動を振り返り、「働くことの喜びは、子どもと保護者の喜ぶ顔を見ること」という先生方の話と自分自身の新たな気付きを組み合わせて、追究課題の答えを考えることができました。

総合的な学習の時間 ②

2 評価規準の作成のポイント 【単元「働くということと向き合ってみよう」（70時間）】

事業所の人の働く姿や働く人の話から教えられたことの意味を考えたり思いを推察したりして、ウェビングを用いて「働くということ」への新たな視点や価値を見いだしている。（学習方法に関すること）

（1）「育てようとする資質や能力及び態度」と「単元で学ぶ内容」を組み合わせて設定すること

単元で育てようとする資質や能力及び態度
働く人から教えられたことの意味を考える、思いを推察する、新たな視点や価値を見いだす。

＋

単元で学ぶ内容
「働くということの意味」

（2） 実現が期待される生徒の姿を想定すること

○ 働く人と自分たちの評価を基に、自分の「働くということ」の捉えのズレに気付き、追究課題を設定している。（学習方法）
○ ウェビングを用いて「働くということ」に対する自分の捉えを付け加えたり、関連付けたりして整理している。（学習方法）
○ 地域で働く人の存在を確認し、それぞれの職業の必要性や特徴をまとめている。（自分自身）
○ 自分の「働くということ」の捉えを積極的にアピールしたり、他者の捉えのよさを受け入れたりしている。（他者や社会とのかかわり）

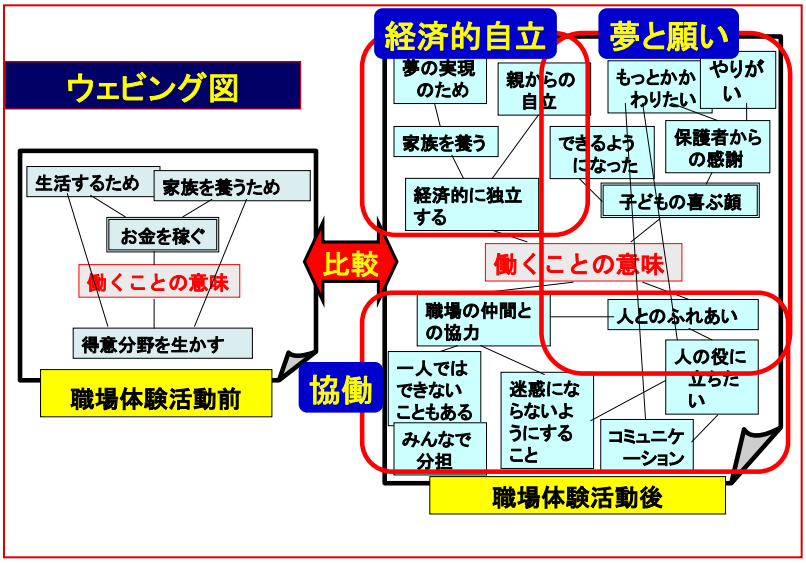
（3） 学習活動の場面を想起し評価規準を設定すること
（どの場面で、何について、どのような方法で評価するのかを明確にすること）

主な学習活動	評価規準及び評価方法		
○ 職業について討議し、経済的自立の視点から「働くということ」について自分の捉え方を見つめる。	思考ア	・「働くということ」についての意識調査（アンケート） ・ウェビング図	制作物による評価
○ ３日間の職場体験活動を振り返り、新たな発見や気付きを整理し、追究課題の答えを見つける。	思考イ	・コメント分析シート ・ウェビング図 ・行動観察（発言）	制作物による評価

3 評価方法等の工夫改善のポイント

（1） 評価に客観性をもたせること

ウェビング等を行う過程で、生徒の学習の様子を見取ったり、結果を蓄積したりして、複数の情報から進歩の状況を的確に把握できるように工夫し、評価に客観性をもたせることが大切です。



（2） 思考・判断していることを評価すること

ウェビング図等の比較により、情報を関連付けたり、自分の考えをまとめたりして思考・判断していることを評価することが大切です。

（3） 特に生徒のよさや成長の様子が表れている事項について評価すること

このようなウェビング図等での比較により特に生徒のよさや成長の様子が表れている事項について、通知票や指導要録に文章で記述していきます。

1　評価の観点とその趣旨　（平成22年5月文部科学省通知）

■　文部科学省の例示

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
趣旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

（1）　今回変更された点

①　評価の観点は学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校で設定します。

②　「思考・判断・実践」という観点が例示されました。

特別活動は「なすことによって学ぶ実践的な活動」であり、考え、判断したことを実践に移すことが重要であることや、特別活動における「表現」は、言語だけでなく具体的な実践において表されるものもあるという理由から、「思考・判断」だけでなく、「思考・判断・実践」という観点が例示されました。

2　評価の観点の設定及び評価規準作成のポイント

（1）　評価の観点を設定する時は以下の点に留意する

○　生徒や地域の実態に応じて、特別活動を通して自校で育てたい資質や能力を明らかにして、全教職員で共通理解を図ることが大切です。

○　各活動・学校行事の全てが評価できる観点を設定する必要があります。

（2）　評価規準を作成する時は以下の点に留意する

○　評価規準は、学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれで作成しましょう。

○　評価規準は、学習指導要領やその解説に示された各活動等の意義、小・中学校の発達段階を踏まえた指導の接続などをもとに作成しましょう。

■　学級活動（1）で評価規準を作成した例

【 学級活動（１）の評価例】　（国立教育政策研究所）

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の生徒と協力して自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の仕方などについて理解している。
小学校の発達の段階ごとの重点（低学年「進んで」、中学年「意欲的に」、高学年「自主的に」）を踏まえて設定	学級活動(1)で育む、望ましい人間関係（「自他の個性の尊重」「集団の一員としての役割と責任の遂行」）を踏まえて設定	学級活動(1)を進める上で必要となる知識・理解（集団活動の意義、参画の仕方、話合い活動の仕方）を踏まえて設定

3　評価方法等の工夫改善のポイント

（1）　各活動・学校行事の評価時期の明確化

○　学級活動（1）の「関心・意欲・態度」「知識・　理解」については、活動の積み上げによって、次第に身に付いたり高まったりすることが考えられるため、学期末などに重点的に評価することもできます。

■　学級活動（1）の評価時期の例

時期（月）	関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
4	◎	◎	○
5	○	◎	○
6	○	◎	○
7	◎	◎	◎

※　◎は重点的に評価する観点

○　学級活動（2）（3）は、毎時間題材が異なるので「知識・理解」については本時で評価する必要があります。また、「関心・意欲・態度」「思考・判断・実践」については、児童の実態に応じて、事前・事後に重点化して評価することもできます。

○　生徒会活動、学校行事の評価は、学期ごとに実施する活動や行事の際に行いましょう。

（2）　各活動・学校行事の評価資料の作成

○　生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもつことができるようにする評価を進めるため、活動の結果だけでなく活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的、総合的に評価したりすることが大切です。

○　生徒の活動の状況について「十分満足できる」と判断できる場合について記録し、評価資料として積み重ねておくことができるよう、「評価資料累積シート」を活用するなどの工夫が必要です。
　また、特別活動は、学級担任以外の教師が指導することも多いので、学級担任以外の教師による評価の結果を反映させて生徒一人一人の活動の状況を評価できるよう、「評価資料集約シート」を活用するなどの工夫が必要です。

■　学級活動の評価資料累積シートの例

平成○○年度　学級活動の評価資料累積シート

2年　組　番　氏名　○　○　○　○

内容	評価の観点	評価規準	1学期 期日	1学期 メモ	2学期 学期	2学期 期日	2学期 メ	年間
(1) 学級や学校の生活づくり	集団生活や生活への関心・意欲・態度	る問	4/21○	・4/21 学級づくりに強い関心をもち、1年生時の経験を踏まえて建設的な意見を述べた。				
	集団や社会の一員としての思考・判断	任を団	4/21○ 6/9 ○	・6/9 学級の問題をしっかりと受け止め自ら進んで話合いに参加した。				
	集団活動や生活についての知識・理解	学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団としての意見をまとめる話合い活動の仕方などについて理解している。						
(2) 適応と成長	集団生活や生活への関心・意欲・態度	自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。		・5/19 ボランティア活動の意義を理解するとともに、学級で企画したミニボランティアを主体的に実践した。	○	10/13○		
	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	日常の生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	5/19○					

活動後などに機会をとらえ、評価の観点に照らして十分満足できると判断できる場合、記入した日付と○印を記入する。

○印を付ける根拠となる生徒の活動状況を日付と併せてメモ欄に記入しておく。

学期、年間の評価を○印で記入する

（国立教育政策研究所「評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）」）

■　各活動・学校行事の評価資料集約シートの例

平成○○年度　第○学期　特別活動評価資料集約シート

（　）年（　）組　学級担任氏名（　　）

記入者確認欄［学年主任、生徒指導主事、養護教諭、○○教諭、○○教諭、○○教諭］

生徒氏名	内容	集団生活や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解	○印の記入者氏名とメモ	まとめ
△△△△（生活委員）	学級活動		○		（記入者氏名）学級で企画したゴミ拾いボランティア活動を実践した。	
	生徒会活動	○	○ ○	○	（記入者氏名）委員長としてリーダーシ[illegible]を発揮した。 （記入者氏名）毎朝挨拶運動に参加した[illegible]	
	学校行事	○	○		（記入者氏名）修学旅行で班別行動では班[illegible]する姿をよく見かけた。	
◇◇◇◇（美化委員）						

学級担任以外の教師が補助簿等に累積した記録や、生徒が作成した各種記録等を参考にした評価結果を記入する。

○印を付けた場合に、記入した教師の氏名とその根拠となる事実等を記入する。

学級活動の評価は、主として学級担任が行うが、必要に応じ学級担任以外の教師から情報を集めることも考えられる。

（国立教育政策研究所「評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）」）

（3）　集団の発達や変容についての評価

○　生徒一人一人の評価のみならず、「望ましい集団が育成されたか」という集団の発達や変容について評価を行うことも大切です。

■　集団の発達や変容を見取る視点の例

視点	課題達成の機能	集団維持の機能
集団	集団活動によって得られる成果、課題への到達度　【A】	集団としてのまとまり度　【B】
個人	子ども一人一人の活動の成果に対する貢献度　【C】	自分にとっての学級の居心地感　【D】

（「初等教育資料 No.791」）

「合唱コンクール」を例にすると

【A】集団として合唱コンクールの目標をどれだけ達成できたか
【B】合唱コンクールを通して、集団全体がどれだけまとまれたか
【C】合唱コンクールの目標を達成するために一人一人がどれだけ努力し貢献したか
【D】合唱コンクールを通して学級が自分にとってどれだけ居やすい場所になったと感じたか

福岡県教育委員会　平成25年1月　作成